

# 日本地衣学会

# No.44

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告.....	153
	第9回青空地衣教室（群馬：本白根山）の記録／木下靖浩・安斉唯夫.....	153
	日本の地衣フロラ解明プロジェクトによる「第1回フロラ調査（群馬県本白根山,2004年9月6日）」の記録／原田浩.....	154

## 会務報告 Reports of the JSL Activities

### 第9回青空地衣教室（群馬：本白根山）の記録

去る9月5日に本年度関東地区での2回目の観察会として第9回青空地衣教室を開催したので報告する。

\* \* \*

開催日：2004年9月5日（日）

開催場所：群馬県吾妻郡草津町本白根山（もとしらねさん）

内容：高山の地衣類を観察する

講師：原田 浩氏（千葉県立中央博物館）

参加者：7名

本白根山ロープウェイ山麓駅に集合し、3台の車に分乗して山頂駅まで移動した。車両通行規制によりバスターミナルから先は一般車は入れないが、綿貫氏の尽力により林道の通行許可を頂き、移動の時間を節約することができた。山麓駅から本白根山山頂を含めた遊歩道を巡回し、高山の地衣類を観察した。

本白根山は標高2171mだが山頂駅は2000mを超えた高さであり、それほどの登りではない。あいにくの天候ではあったが、針葉樹林帯の中の歩きやすい道を進んだ。針葉樹林帯の中でも足元にはアカミセンニンゴケ、樹幹にはシダレキノリやタカネアカミゴケなどの樹枝状地衣、センシゴケ、アワビゴケなどの葉状地衣が

認められた。

2100mほどの高さまで登ったところで視界が開け、目の下に噴火口、“から釜”が、その向こうに本白根山山頂が見えた。“から釜”をぐるっと廻り山頂に至る遊歩道沿いは樹木は無く石がごろごろしており、ところどころにコマクサ、そして様々な地衣が競うように生えていた。石と保護色のようなマキハエイランタイ、灰色のハナゴケ、ハナゴケと形は似ているがウスニン酸の黄色が目立つワラハナゴケ、丸い形が印象的なミヤマハナゴケ、これらが地面のそこかしこに認められ、さながら地衣のパッチワークのような状態であった。コナハイマツゴケを付けたハイマツが繁る遊歩道の最高地点では噴煙を上げる浅間山を眺めることもできた。その後“鏡池”を経て遊歩道を一周する間にもオリーブゴケやシヨクダイゴケ、ゴヘイゴケ、タカネゴケ、ウグイスゴケ、スルメゴケ、カムリゴケなどを見つけ、合計およそ50種類の地衣類を観察できた。

最後にこの場をお借りして、本観察会の場所選定や通行許可など、多大な御協力を頂いた群馬県立自然史博物館・綿貫氏に深謝したい。

（木下靖浩・安斉唯夫：地域活性化委員会関東）

# 日本の地衣フロラ解明プロジェクトによる「第1回フロラ調査（群馬県本白根山, 2004年9月6日）」の記録

本会の委員会として「日本の地衣フロラ解明プロジェクト」を本年度大会時に正式に立ち上げることになり、その最初の活動として、2004年9月6日に群馬県本白根山において、フロラ調査を実施した。前記（前頁）

の記事にある「青空地衣教室」の翌日である。参加メンバーは以下のとおり、調査の概略を次に紹介する。

調査メンバー：原田浩（まとめ役）、安斉唯夫、小山西行雄、木下靖浩、加藤裕一、山本好和、綿貫攻。

\* \* \*

前日の雨も上がり、採集と撮影には、またとない天候となった。山頂の噴火口と周辺のハイマツ低木林の周辺のみを対象地と決め、採集は主として原田が担当し加藤と綿貫が補佐し、残るメンバーは主として撮影に当たった。

前日に雨の中で見た時とは、違って見えた種類もあった。じっくり腰を据えての調査は、同時によい観察の機会にもなったようだ。参加者にとって、とりわけ記憶に残るのは、おそらくアオウロコタケ（＝アオウロコゴケ） [*Lichenomphalia hudsoniana*] の子実体の発見だったと思う。最初は基本葉体の発見に始まったが、大勢で観察するうちに、とうとうキノコを見つけることができたというわけだ。この、担子地衣類のキノコをみたことがある者は、日本では、数えるほどしかないはずだ。

\* \* \*

調査の結果は、採集品に基づくリストとして Lichenology に公表する予定である。標本は千葉県立中央博物館と群馬県立自然史博物館に保管されることになっている。また、現地でも多くの生態写真を撮影しているので、これに標本写真を加え、何らかの形でガイドブックのようなものを作ることも考えている。予算がないので、当面は CD によるデジタル画像の配布という形になるかもしれない、ご期待を。

（原田 浩）



Fig. 1. 調査地の一角。本白根山の山頂付近。左手は“お釜”。  
撮影：綿貫攻。

## ●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

## ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 44号

発行日：2004年 11月 22日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄  
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2004 日本地衣学会 (© 2004 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。